

発起人の岩川さんに賞状を贈呈。バイオリンを手にするのがリーダーの崔さん。



## 心に響く 音楽の翼を広げて — ANA Team HND Orchestra —

3月12日(日)、ANA Team HND Orchestra (エイエヌエイ・チーム・羽田・オーケストラ。通称「羽オケ」)に「小さな親切」実行章を贈呈。この日は、ディナーショー開催のための資金を募ったクラウドファンディングのリターン(返礼)として、支援者一組とセッションを行うプライベート演奏の日でした。

羽オケは、全国の空港や地域のイベント等で、ボランティアで公演を行っており、「追っかけ」もいるほど人気の社員バンドです。

メンバーは、ANAグループの各職場で働く有志の皆さん。パイロットや整備士、キャビンアテンダントなどそれぞれの制服で、ANAの機内で流れている『Another Sky (アナザースカイ)』を始め、『情熱大陸』『浪漫飛行』などを演奏していただき、演奏力の高さはもとより、メンバーの笑顔に魅了されました。まさに、実行章の推薦文にあった「羽オケさんは、音楽で笑顔と感動を届けています」そのものです。

東日本大震災からの復興を願い、羽田空港で開催された七イベントでの演奏が羽オケのスタート。「この活動は、自己犠牲の精神がないと難しい。メンバーは人間性も大事です。国籍、職業、世代もバラバラですが、みんな仲がいいですよ」と語るのは、発起人の岩川明浩さん(現役パイロット)。

当初はMCをつとめていましたが、活動を機にベ-

スを手に入れ、今では演奏を成立させる大事な一員となりました。

バイオリン担当の崔竜<sup>チェヨン</sup>さんは、バンドリーダーとして曲のアレンジに加えて、練習の仕切り、演奏者のスケジュールや会社との稼働調整など、活動しやすい環境づくりにも努めています。「東日本大震災ではお客様が減り、それぞれが自分に何ができるかを考えました。コロナ禍では全ての仕事がなくなったメンバーもいて、苦しい時期もありましたが、羽オケを通して会社や社会の役に立てて良かった」とこれまでを振り返りました。

演奏メンバーを探していた岩川さんが、崔さんにかけた1本の電話がすべての始まり。以来、二人のタッグは、葉加瀬太郎さんやTUBEとのコラボを実現させ、オンラインでの演奏配信、ディナーショーの開催など新たな活動へと輪を広げています。



写真撮影の笑顔づくりは「チーズ！」でなく、「せーの、ANA(エイエヌエイ)！」が羽オケ風。